

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 6 月 8 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24530399

研究課題名(和文)ドイツ語圏を中心とするヨーロッパ広域経済圏の形成に関する歴史的研究

研究課題名(英文)Historical Approach

研究代表者

ばん澤 歩 (Banzawa, Ayumu)

大阪大学・経済学研究科(研究院)・教授

研究者番号：90238238

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究においては、工業化と国民経済の成立について多面的な分析をおこない、コミュニケーション・インフラストラクチャの機能によって地域経済の編成が起きるメカニズムを、ドイツ語圏と中欧とをフィールドとして考察した。主にドイツ語圏鉄道業に関する分析結果を、欧米における空間経済史的な地域経済分析の成果のサーベイによる知見と接合したところ、鉄道業の少なくともライヒレベルでの統合の未完成と国民経済の成立が一九二〇年代以降であろうとの結果が補完的であることを立証できた。一連の調査はドイツ語圏の陸運に集中したが、中欧規模での水運による地域経済の統合についても示唆的な結果を得ているといえる。

研究成果の概要(英文)：This research has investigated the relationship between industrialization and nation state formation in modern Europe (especially the German speaking countries and the Central Europe) from various angles. The object of study is the mechanism of formation of regional economies by establishment of communication infrastructure. The point I want to make is the casual relationship between the German railways that were not integrated into a national one and an unfulfilled German national economy by the 1920s. These result indicates that a regional integration by water transportation in the Central Europe.

研究分野：経済史・経営史

キーワード：近代史 ヨーロッパ経済 工業化 地域 国民国家 国際情報交換 多国籍

## 1. 研究開始当初の背景

- (1) 研究担当者は19世紀ドイツ語圏における鉄道業の発展が工業化にあたる影響を、多方面から検討してきた。それらは数量経済史的分析手法ならびに制度・組織史の実証的観察によるものであり、一連の成果は、鳩澤歩『ドイツ工業化における鉄道業』(2006)としてまとめた。
- (2) これらの成果をふまえ、交通インフラの発達と「国民経済」成立との関連について、一ドイツ国民国家の規模に限らず、研究対象を地理的に拡大し、さらに新古典派的市場観に限られない現代経済学的手法の援用によって、さらに調査を深める必要が生じた。
- (3) 研究対象としては、「ドイツ帝国」に概念的に収束するドイツ語圏にとどまらず、ドナウ川流域に代表される中欧経済圏にも着目し、国民国家の枠組みを離れた連関の可能性を確認する必要が生じた。

## 2. 研究の目的

工業化と国民経済の成立について多面的な分析をおこない、コミュニケーション・インフラストラクチャの機能によって地域経済の編成が起きるメカニズムを、ドイツ語圏と中欧とをフィールドとして考察すること。これにより地域経済の編成の動因に関する知見を得ること。

## 3. 研究の方法

- (1) 史料調査；中欧(ドイツ、オーストリア、ハンガリー、チェコ)ならびにその他地域(北イタリア)における史料・資料の収集・調査によって、ドイツ語圏鉄道の組織形成とその展開を19 - 20世紀前半におよぶ比較的長い時期について跡付ける  
ヨーロッパにおける一定以上の規模をもち、「地域」としての歴史学的認証を受けている広域経済圏についてその展開を数量的データ等によって裏付ける  
という主に二系統の作業をおこなう。
- (2) 数量的分析；数量データを比較的シンプルな統計分析によって(再)整理し、一定の知見を得る。
- (3) 欧州経済史に関して得られた知見を、日本はじめ他国・地域に関する問題関心において同志向の諸研究と対比し、比較史的な知見を得る。

## 4. 研究成果

(1) ドイツ語圏を中軸とする地域経済の編成について、最近のとくに数量経済史的研究動向を整理し、「関税同盟」成立に関する最新の学術的動向を確認した。関税同盟

の成立は、従来のプロイセン中心の国民経済成立への単線的な変化にとどまるものではなく、地域経済レベルを代表する中小邦の存在をより強調すべきだと考えられる。これらの結果は、19世紀におけるドイツ諸領邦の国鉄統合の展開に関しても示唆的である。またヨーロッパ経済史における「地域」について、空間史的手法の紹介をおこない、「歴史学の空間的転回」がドイツ経済史研究においても意識されるべきであることをあきらかにした。

(2) 19世紀ドイツ語圏の鉄道業を対象に、ドイツ所在の複数の公文書館・史料館における主に官庁文書に対する史料調査の成果をもとに、

ドイツにおける鉄道業の国民国家的統合の組織的困難について、ピスマルクの設置した帝国鉄道庁(Reichseisenbahnamt; REA)の組織的な無機能と統計作成における他省庁との連携の失敗を実証した。REAに当初期待された機能を充たすために必要な、超地域的な情報集約組織が全く欠如していたことを、最初の全ドイツ規模の鉄道統計作成におけるREAの無機能とそれへの批判を通じて実証的にあきらかにした。

地域国家である領邦の所有・経営する鉄道がナショナル・ベースで統合される条件について再考察するため、領邦鉄道のうち最大のものであり後に統一されたドイツ国鉄であるライヒスパーンの母体ともなったプロイセン国鉄について分析を加えた。具体的には、組織の効率性の相対的比較にくわえ、近似的総要素生産性を測定し、その動向においてあきらかにプロイセン・ヘッセン鉄道合併後の時期以降、総要素生産性の成長率が低下することを示した。この結果、プロイセン国鉄における組織改革の効果は、合併による経営規模の拡大以降のものは経営の効率性上昇に顕著に大きな影響を及ぼしたとはいえないことが結論できた。これらの結果から示唆されるのは、19世紀末の時点で、ライヒ=ドイツ国家統規模での鉄道業の統一には、組織効率性の点では経済合理性がなかったことである。

(3) これらの分析結果を、欧米における空間経済史的な地域経済分析の成果のサーベイによる知見と接合したところ、コミュニケーション・ツールである鉄道業の少なくともライヒレベルでの統合の未完成と、国民経済のフォーマルな定式化にもとづく成立が一九二〇年代以降であろうとの結果が補完的なものであることを立証できた。

(4) 一連の調査はドイツ語圏の陸運に集中したが、中欧規模での水運による地域経済の統合についても、示唆的な結果を得ているといえる。ドナウ川水運については、歴史的な一体性をもち、「ドナウ経済圏」として19世紀以来、国家・政治的枠組みの大きな変化にかかわらず認識がつづいてきたものの、その実体性は20世紀末まで乏しいと言わざるを

得ない側面をもつことがわかった。その意味で、常に将来期待に依存して存立するいわば「想像の経済圏」ともいえることがわかった。(5)なお一連の研究成果を英語で発表する機会を得たところ、我が国における西洋経済史・経営史研究の動向と現状についてあらためて考察する必要を認識し、共著論文ならびに図書におけるサーベイ的な論稿の形で観察結果をあきらかにした。西洋経営史研究のこれまでの達成を国際的動向との一致性の下落傾向において認識し、発表媒体の国際化が新たな段階に入っていることを指摘した。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

Ayumu Banzawa, What caused the failure of nationalisation of the railway system in Japan?: Malfunction of the German Imperial Reichseisenbahn Office (Reichseisenbahnamt) in the 1870s and 1880s., Discussion Papers in Economics and Business: Graduate School of Economics and Osaka School of International Public Policy(OSSIP), Osaka University.

鳩澤歩「国際関係のなかの19世紀ドイツ鉄道企業団体」経済論叢(京都大学)第187巻第3号、2013、79-94

鳩澤歩「19世紀ドイツ鉄道国有化と帝国鉄道庁 ドイツ・ライヒ鉄道統計の作成過程を中心に」大阪大学経済学 第63巻第1号(阿部武司博士還暦記念論文集)2013、218-233

鳩澤歩「ドイツ関税同盟に関する経済史的研究」大阪大学経済学 第64巻第2号(澤井実博士還暦記念論文集)2014、197-207

Ayumu Banzawa, Makiko Hino and Sadato Hiroko, "The development of western business history research in Japan - with reference to the simultaneity with research in western countries." Japanese Research in Business History 32 (2015) 2016 11-32

[学会発表](計6件)

Ayumu Banzawa, What caused the failure of nationalisation of the railway system in Japan?: Malfunction of the German Imperial Reichseisenbahn Office (Reichseisenbahnamt) in the 1870s and 1880s., EBHA-BHSJ Paris 2012: Business Enterprises and the tensions between local and global., 2012年8月31日、EHES, Paris, France.

Ayumu Banzawa, Failure of obtaining the First National Railway Statistics in Germany in the 1870s and 1880s., 京都大学大学院経済学研究科主催 卓越した大学院拠点形成のための国際ワークショップ Comparing the Histories of Management in the Railway Industry: Integration or Copetition?, 2013年2月16日、京都大学 経済学研究科(京都府、京都市)

Ayumu Banzawa, "Development of Western Business History Research in Japan - with Reference to the Simultaneity of Researches in Western Countries." 経営史学会第50回全国大会 2014年9月12日 文教学院大学(東京都、文京区)(Makiko Hino、Hiroko Sadatoh との共同報告)

杉山伸也、橘川武郎、石井里枝、鳩澤歩、岡部桂史 パネル・ディスカッション「工業化と企業家精神 ヨハネス・ヒルシュマイヤーの時代」南山大学社会倫理研究所・南山学会 合同主催公開シンポジウム 2014 2014年6月21日 南山大学(愛知県、名古屋市)

鳩澤歩「東アジアにおける鉄道技術の展開 コメントヨーロッパの視点から」経営史学会第51回全国大会 共通論題報告 2015年10月11日 大阪大学(大阪府、豊中市)

鳩澤歩「帝政ドイツにおける鉄道業の統合; 19世紀末以降のプロイセンにおける展開を中心に」経営史学会関西西部会12月例会(大阪大学経済史経営史研究会との共催)2015年12月19日 大阪大学 (大阪府、豊中市)

[図書](計2件)

社会経済史学会 編『社会経済史学の課題と展望』有斐閣、2012、262-275

経営史学会 編『経営史学の50年』日本評論社、2015、327-335

[産業財産権]

出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

鳩澤 歩 (Banzawa. Ayumu)  
大阪大学大学院経済学研究科・教授  
研究者番号：90238238

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：